
魔法教師ネギま！

てるもふ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法教師ネギま！

【Nコード】

N9079R

【作者名】

てるもふ

【あらすじ】

現在改定中。気長に。

序章

鬱蒼とするほどの人ごみの中を、赤毛の男性が走っている。

右手にはキャスターが付いていない、手持ちで大型のトランクケースが一つ。それは年代を感じさせる木製の代物であり、持ち主の黒いスーツ姿と相まって、多少の違和感を感じさせる。

ピタリ——動きが止まる。この人ごみの中で止まるのは危険であるが、彼は意に介さず周りを見渡した。

「おかしいなあ。たしかこの辺だった気が……」

何かを探しているのか、必死に周りを見渡す。しばらくの間そうしていると、彼は何かを見つけたかのように、ある一点を注視し始めた。目を細め、見つめる。

「……あッ」

どうやらそれは彼が求めていたものらしく、風のような速さで走り出した。

■

「このかぁー、このままじゃ遅刻しちゃうよ?」

神楽坂明日菜はのんびりとローラースケートで登校している近衛木乃香に不平不満を漏らした。

周りの人々は尋常ならざる速さで登校劇を繰り広げており、中には危険極まりない者らも多数。そのようなものを見ていれば、いやあう否応無く焦るというものだ。

「大丈夫やつて。これで遅刻しても、理由がちゃんとあるんやから」「そうだけど……」

しかし、あくまで木乃香はマイペース。それには確かな理由はあるも、そこに彼女自身の性格が混じり入っているのは否定できない。

それでは明日菜は納得できない。納得できない焦り。くだらない理由だが、遅刻を回避したいものだ。それも新学期早々。

「やあ。どうしたんだい、こんなところで」

明日菜と木乃香の永遠に終わらないやり取りに終止符を打つ一声。その声に振り返る二人は、多少の驚きと多大な驚き持っていた。

「た、高畑先生!？」

「先生、おやよーございます」

「おはよう、二人とも」

声は二人の後方から聞こえてきた。そこには校舎。恐らくは廊下辺りだろうか。

その窓から声を掛けてきたのは彼女らの担任である高畑・T・タカミチ。白い髪に眼鏡、左中指に指輪をしている壮年と思われる男だ。学生からの人気も非常に高い。

「高畑先生、どうしてそんなところから？」

明日菜が疑問を口にする。普通ならば、通りかかった窓から教
子を見つけて声をかけたただだと思うが、明日菜にはそういう考
えは無かった。正確には、そう言わざる得なかったというべきか。今
の明日菜には考えるだけの余裕が存在しない。

「いや、なに。たまたまここから友人が見えたから。ほら、そこに」

タカミチは明日菜のすぐ横を指さした。明日菜の記憶が確かなら、
そこにはコンクリートの地面があるだけのはず。特に深く考えずに
明日菜は左隣へと視線を移した。

「……どうも」

「——って、うわッ！」

「ちょ、何ですか！？ 唾を飛ばさないでください！」

明日菜の隣にはいつの間にか、先ほどの赤毛の彼が立っていた。

「お久しぶり、ネギ君」

少し、少しばかり喧嘩早い明日菜。そこにタカミチという存在も
合わさり、瞬く間にボルテージは上昇。

赤毛の彼と明日菜が若干の口論へと移りかけようとしていたとこ
ろを見計らってか、タカミチが彼へと声をかけた。

「だから唾を——。え、えー、ゴホン」

明日菜に何かを言いたそうだが、仕方が無く自分の感情を抑え、
咳払いをして気分を落ち着かせた。

「まずは——久しぶり、タカミチ」

落ち着きを取り戻した彼はタカミチへと再会の挨拶をする。それを聞いた明日菜は「知り合い……？」と訝んだ。

「それと……彼女たちは？」

彼はタカミチへと訊いた。何かと具体的には訊いていないが、タカミチは雰囲気きょう気で察さつして頷いた。

「それでは……」

彼は明日菜と木乃香へと向き直る。姿勢を正したその姿に、明日菜も少し緊張した趣おもむきである。

「このたび、麻帆良学園で英語教師の教育実習生となりましたネギ・スプリングフィールドです。あと、あなた方の担任も」

「え——えええええッ!？」

麻帆良学園の空へと、大きな大きな声が響き渡る。響き渡った声が明日菜だけのものであるのは言っまでもない。

序章（後書き）

性懲りもなく小説投下しました。前作は？ 本当にすいません。一応終わり方とかプロット決まってるんですけど、どうもやる気が。最近オリ主とかクロスオーバー作品へのやる気が見る見る減ってます。所詮は言いわけですね。これからも懲りずに小説投下していきます。もちろん完結させることを目指して。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9079r/>

魔法教師ネギま！

2011年11月13日20時51分発行